



日澳洪国交樹立150周年

オーストリア映画・ハンガリー映画特集

Films from Austria and Hungary

— Celebrating 150th Anniversary of the Diplomatic Relations with Japan

2019年

10月10日(金) — 10月20日(日)

10月の休館日▶▶▶月曜日

主催: 国立映画アーカイブ、駐日ハンガリー大使館、
駐日オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム東京
協力: Hungarian National Film Fund – Film Archive
(ハンガリアン・ナショナル・フィルム・ファンド=フィルムアーカイブ)



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan



国立映画アーカイブ [2階]

長瀬記念ホール OZU

定員=310名(各回入替制・全席自由席)

前売券

9月24日(日)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各150席分)を販売します。

[Pコード: 550-377]

前売料金: 一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円

・別途発券手数料がかかります。

・各回の開映後の入場はできません。

・学生、シニア(65歳以上)の方は証明できるものをご提示下さい。

・チケット購入方法や手数料については、4頁をご覧ください。

当日券(発券=2階受付)

料金: 一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円 / 障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

◆当日券で入場される方には、開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。各日の開館時間については4頁のスケジュール欄をご覧ください。

・各回の開映後の入場はできません。

・当日券の発券は、定員に達し次第締切ります。

・学生、シニア(65歳以上)、障害者、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。

・当日券の発券は各回1名につき1枚のみです。

入場方法

①前売券をお持ちの方は、開場時(開映30分前)に、前売券に記載された整理番号順にご入場いただけます。

②その後は、当日券の整理券をお持ちの方が、整理番号順にご入場いただけます。前売券をお持ちの方は、随時ご入場いただけます。

●前売券・当日券は当日・当該回のみ有効です。

長瀬記念ホール OZU
上映作品

日墺洪国交樹立150周年

オーストリア映画・ハンガリー映画特集

Films from Austria and Hungary
— Celebrating 150th Anniversary of the Diplomatic Relations with Japan

本年は、日本とオーストリア＝ハンガリー二重帝国が修好通商条約に調印してから150年にあたります。同帝国の歴史は第一次世界大戦の結果幕を閉じますが、その後それぞれ共和制へと移行したオーストリアとハンガリーは、激動の時代を経ながら、日本との友好関係を築いてきました。こうした歴史をふまえ、国立映画アーカイブでは、駐日オーストリア大使館および駐日ハンガリー大使館と共同で、両国の映画を特集する上映会を開催いたします。

上映作品は、当館所蔵の日本語字幕付きプリントを中心に、さらに両大使館の提供による作品も加え、計10プログラム(両国5プログラムずつ、計16本)となります。歌や音楽の魅力を前面に押し出した大衆映画から個性的な映画作家たちによる実験的作品まで、また、社会の厳しい現実を鋭くとらえた映画から、清算できない歴史と向きあった映画まで、多様な作品がそろいました。この機会に、ぜひ両国の映画をご覧ください。その歴史や文化にふれてみてはいかがでしょうか。皆さまのご来館をお待ち申し上げます。

- ハンガリー人の人名のみ「姓・名」の順に表記しています。
- 「マリア・ラスニツヒ作品集」および「映画に必要なのは女と銃だけ」以外は、すべて日本語字幕が付いています。

- ◎=監督 ◎=原作・原案 ◎=脚本・脚色 ◎=撮影 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=出演 ◎=声の出演
- 特集には不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。



幼な心 © Filmarchiv Austria



未完成交響楽 © Filmarchiv Austria

オーストリア映画

1 10/10(木)7:00pm 10/18(金)3:00pm

幼な心(91分・35mm・カラー)

Kleines Herz in grosser Not

当時13歳の子役スター、クリスティーネ・カウフマン主演の家族メロドラマ。美しいチロルの自然を舞台に、互いにすれ違う親子の愛が描かれる。当時世界的な音楽一家として知られていたエンゲル一家の子供たちも出演し、歌と演奏をふんだんに披露するのも見どころ。1959年日本公開。

1958(ツェーネ・ベネシュ・フィルム)◎アルフレート・レーナー ◎アルフレート・ベネシュ ◎ヘルマ・コスタ=プルシャ ◎アルフォンズ・ベネシュ ◎ニーノ・ボルギ ◎フランク・フィリップ ◎クリスティーネ・カウフマン、ハンス・ゼンカー、ヘルター・ファイラー、パウリ・エンゲル、パウル・リヒター、ルーチエ・エングリッシュ

2 10/12(土)1:00pm 10/17(木)3:00pm

未完成交響楽(93分・35mm・カラー)

Das Dreimäderlhaus

シューベルトの恋愛を自由に翻案したオペレッタ「3人姉妹の家」(1916年初演)を映画化した音楽恋愛劇。ドラマと一体となって演奏されるシューベルトの歌曲と、ウィーン体制下の風俗を再現した華やかな美術が見どころ。監督は「シシー」3部作(1955-57)で知られるE・マリシュカ。なお、戦前のヴィリー・フォルト監督による『未完成交響楽』(1933)は別作品である。1961年日本公開。

1958(アスパ・フィルム/エーリナ)◎◎エルンスト・マリシュカ ◎ハインリヒ・ベルテ、ハインツ・ライヒェルト、アルフレート・マリア・ヴィルナー ◎ブルーノ・モンティ ◎フリッツ・ユートナー=ヨーンシュトルフ ◎アントン・プロフェス ◎カール・ハインツ・ベーム、ルードルフ・ショック、マクダ・シュナイダー、グスターフ・クヌート、ヨハナ・マツ、リヒャルト・ロマンフスキー



ミュラー探偵事務所 © WEGA-Film



マリア・ラスニツヒのバラッド



映画に必要なのは女と銃だけ

3 10/12(土)4:00pm 10/18(金)7:00pm

ミュラー探偵事務所

(104分・35mm・カラー・英語字幕付)

Müllers Büro

探偵ミュラー(シュミット)のもとを、イングリッド・バーグマンと名乗るプロンド美女(ルドニック)が、失踪した恋人の捜索依頼に訪れる。翌日ミュラーは新聞で、美女の正体は大富豪の娘であり、しかも殺害されたと知るのだが…。というハードボイルドな枠組みからあれよあれよと逸脱し、80年代感たっぷりなアレンジのミュージカルナンバーと、有名アメリカ映画のパロディが次々投入される、オーストリア国内で当時大ヒットしたコメディ。1988年日本公開。

1986(ヴェガ・フィルム)◎◎ニキ・リスト ◎ハンス・ゼリ ◎コフスキー ◎ルードルフ・ツェッテル ◎フレディ・ギジェル、ペーター・ヤンダ、ローター・シェルベ、アーニー・ゾイベルト、ウィナー・ヴンダー ◎クリスティアン・シュミット、アンドレアス・ヴィタゼク、バルバラ・ルドニック、スー・タウバー、マキシム・スコップ、ガビー・ヒフト、ヨッヘン・プロクマン

4 10/11(金)7:00pm 10/20(日)4:00pm

マリア・ラスニツヒ作品集(計64分)

Filme von Maria Lassnig

今年生誕100年を迎えたオーストリア人映像作家、マリア・ラスニツヒ(1919-2014)の作品集。近年再評価が著しいラスニツヒは、1960年代後半にニューヨークへ渡ってアニメーション作品を作り始め、注目を集めるようになる。フェルトペンや水彩画によるアニメーションを基調としながら、実写や写真、新聞の切り抜きなどと大胆にコラージュし、形や色をグロテスクに誇張・変形する一連の作品が描き続けるものは、見られる/欲望される客体としての女性の身体であり、その解体である。

*本作には日本語字幕は付いていません。該当回の入場時に、採録日本語テキストを配布します。

アイリス(10分・16mm・カラー) Iris

1971◎マリア・ラスニツヒ

カップルズ(9分・16mm・カラー) Couples

1972◎マリア・ラスニツヒ

自画像(4分・16mm・カラー) Selfportrait

1971◎マリア・ラスニツヒ

手相(10分・16mm・カラー) Palmistry

1974◎◎マリア・ラスニツヒ ◎ジョージ・ヘイワード ◎ドナ・クレイグ

バロックの彫像(15分・16mm・カラー)

Baroque Statues

1974◎マリア・ラスニツヒ ◎リズベット・エーベルヴァイン、ウィティ・ガブリエル

芸術教育(8分・16mm・カラー) Art Education

1976◎◎マリア・ラスニツヒ ◎ロン・ウォルシュ、ジル・ウォルシュ、ポール・ガーツ

マリア・ラスニツヒのバラッド(8分・35mm・カラー・英語字幕付) Maria Lassnig Kantate

1992(アニメーション・フィルムズ)◎◎◎マリア・ラスニツヒ ◎フーベルト・ジューレッキ ◎パウル・ブラウンシュタイン、ヨーゼフ・ネルムート

5 10/15(木)7:00pm 10/20(日)1:00pm

映画に必要なのは女と銃だけ

(93分・35mm・カラー)

Film Ist. a Girl & a Gun

前作「FILM IST. (1-12)」(2004)に続く、実験映像作家G・ドイチュによる映像コラージュ。欧米のフィルムアーカイブから提供された、映画史前半に作られた様々な映画の断片を視覚的類似によって自在に組み合わせ、五幕構成で見せる。そこから浮かび上がってくるのは、映画メディアが女性の裸体へ向けてきた、強迫的なまでの眼差しである。「EUフィルムデーズ2010」上映作品。

2009(ループ・メディア)◎◎グスターフ・ドイチュ ◎クリスチャン・フェネス、マルティン・ジーヴェルト、ブルクハルト・シュタングル

ハンガリー映画

6 10/13(日)11:00am 10/17(木)7:00pm

メリー・ゴー・ラウンド (93分・35mm・白黒)

Körhinta

舞台は1953年の農村。集団農場(農協)から独立しようとする父親から、娘は共同事業者との結婚を強要される。しかし彼女には想いあう相手が別いた。自由と尊厳を謳いつづけたフェアブリ・ゾルターンンの代表作で、1956年のカンヌ国際映画祭に出品され、2017年には「カンヌ・クラシック」の1本として上映された。自在に移動するカメラが、的確なポジションとアングルで、人物の心理の動きを語り尽くす。メリー・ゴー・ラウンドのシーンに代表される旋回運動は必見。

1955(フンニア・フィルムジャーナル) ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿



メリー・ゴー・ラウンド

© Schandl Teréz

7 10/13(日)2:00pm 10/16(水)1:30pm

もうひとりの人 (219分・35mm・カラー)

A másik ember

昨年12月に81歳で生涯を閉じた、ハンガリーを代表する映画監督コーシャ・フェレンツの追悼上映。第二次世界大戦末期の1944年を舞台とする第一部と、一党独裁政権と武装蜂起した市民との間で銃撃戦となった1956年のハンガリー動乱を描く第二部からなり、とある家族の3世代に渡る受難が繊細なカメラワークで描き出される。ハンガリー映画史上最重要作の1本。非武装を貫こうとする父子の姿と、常に周囲の大国に左右されてきたハンガリー人の歴史が反響しあひ、非常時下での人間の尊厳のありかを問う普遍的な映画となっている。日本では「東欧映画祭'90」で上映。

*途中10分の休憩をはさみます。

1988(マフィルム・オブジェクトィブ・フィルムシュトゥディオ) ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

8 10/10(木)3:00pm 10/19(土)1:00pm

私の20世紀 [4Kレストア版]

(103分・DCP・白黒) Az én XX. századom

『心と体と』(2017)などで知られるエニエディ監督の長篇監督デビュー作。エジソンによる自然電球のお披露目が行われた1880年、ブダペストで生まれた双子の姉妹がそれぞれ別の里親に引き取られていく。20年後、ひとりには革命家、もうひとりには詐欺師となり、同じオリエント急行に偶然乗り合わせる…。双子の姉妹とひとりの男の奇妙な恋愛が、エジソンやテスラなどの魔法のような科学の光に照らし出される20世紀の幻想譚。日本では1990年に初公開され、今年4Kレストア版が再公開された。

配給：サンリス

1989(ブダペスト・シュトゥディオ/フレイハンリア・フィルムプロデュークション) ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿



もうひとりの人

© Kalászi György

9 10/11(金)3:00pm 10/16(水)7:00pm

君の涙 ドナウに流れ ハンガリー 1956

(120分・35mm・カラー) Szabadság, szerelem

1956年、水球代表選手カルチ(フェニエー)は、デモを率いる女子学生ヴィキ(ドボ)と恋に落ちる。流血の闘争はやがて民衆の勝利に終わり、カルチは五輪開催地のメルボルンへと旅立つのだが…。「ランボ」シリーズや『勝利への脱出』(1981)などのプロデューサーであるアンドリュウ・ヴァイナが、故国ハンガリーで、ハンガリー動乱と「メルボルンの流血戦」として名高い水球のハンガリー対ソ連戦をモチーフにプロデュースした大作。登場人物は全員架空の人物だが、迫真の映像が、観る者を強烈に作品世界へと引き込む。2007年日本公開。

2006(C2 / シネルギ/フラッシュバック・プロダクションズ) ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

10 10/15(日)3:00pm 10/19(土)4:00pm

悪童日記 (112分・DCP・カラー) A nagy füzet

アゴタ・クリストフの世界的ベストセラーの映画化。第二次世界大戦末期、オーストリア国境に近いハンガリーの村で、一心同体の双子の少年が、人間の醜さを直視しながらたたかき生きていく。ドイツ軍の制服やダビデの星などが登場することで、原作が曖昧にしていた歴史的・地理的設定が特定されている。ミハエル・ハネケとのコンビで知られるクリスティアン・ベルガーの撮影と、個性的な仕事で注目を集める中、昨年急逝したヨハン・ヨハンソンの音楽にも注目。2014年日本公開。

2013(フンニア・フィルムステュディオ/インテュイト・ビクチャーズ/アムール・フ・ウイーン/ドルチェ・ウィタ・フィルムズ) ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿



君の涙 ドナウに流れ ハンガリー 1956

© Cinergi Pictures Entertainment Inc. InterCom Zrt



私の20世紀 [4Kレストア版]

© Bartók István



悪童日記

© 2013 INTUIT PICTURES - HUNNIA FILMSTUDIO - AMOUR FOU VIENNA - DOLCE VITA FILMS

オーストリア映画・ハンガリー映画特集

Films from Austria and Hungary — Celebrating 150th Anniversary of the Diplomatic Relations with Japan

月	火	水	木	金	土	日	
10月	7	8	9	10	11	12	13
				8 11:00am開館 3:00pm 私の20世紀[4Kレストア版] (103分)	9 11:00am開館 3:00pm 君の涙 ドナウに流れ ハンガリー 1956 (120分)	2 11:00am開館 1:00pm (93分) 未完成交響楽	6 11:00am開館 1:00pm (93分) メリー・ゴー・ラウンド
				1 7:00pm (91分) 幼な心	4 7:00pm (計64分) マリア・ラスニッチ作品集	3 4:00pm (104分) ミュラー探偵事務所	7 2:00pm (219分) もうひとりの人 *途中休憩あり
	10 11:00am開館 3:00pm 悪童日記 (112分)	7 11:00am開館 1:30pm もうひとりの人 (219分) *途中休憩あり	2 11:00am開館 3:00pm (93分) 未完成交響楽	1 11:00am開館 3:00pm (91分) 幼な心	8 11:00am開館 1:00pm (103分) 私の20世紀[4Kレストア版]	5 11:00am開館 1:00pm (93分) 映画に必要なのは女と銃だけだ	
	5 7:00pm (93分) 映画に必要なのは女と銃だけだ	9 7:00pm (120分) 君の涙 ドナウに流れ ハンガリー 1956	6 7:00pm (93分) メリー・ゴー・ラウンド	3 7:00pm (104分) ミュラー探偵事務所	10 4:00pm (112分) 悪童日記	4 4:00pm (計64分) マリア・ラスニッチ作品集	

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

展示室(7階)

【企画展】

映画雑誌の秘かな愉しみ

The Discreet Charm of Film Magazines

2019年9月7日(土)～12月1日(日)

*月曜日、9月23日(月・祝)～9月30日(月)は休室です。

主催:国立映画アーカイブ

協力:群馬県太田市立新田図書館

映画が新しい視覚メディアとして普及し始めた明治末期以来、その発達と歩を合わせながら、数多の映画雑誌が生み出されてきました。本展覧会では、今年創刊100周年を迎えた「キネマ旬報」の創刊号や、日本初の映画雑誌とされる「活動写真界」などの貴重な雑誌を含む、明治・大正期から近年までの多種多様な映画雑誌を通じて、その豊かな歴史をたどります。映画雑誌と映画の愉しみを再発見する機会となるでしょう。

*詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

常設展ギャラリートーク

原則として毎月第一土曜日12時より
10月5日

NFAJ Digital Gallery
NFAJ デジタル展示室 Digital Gallery
下記ホームページからお入りください
<https://www.nfaj.go.jp/online-service/digital-gallery>

前売券の購入方法

[Pコード:550-377]

チケットぴあ店舗、セブン-イレブンで購入

▶9月24日(火)10:00より各プログラムの前日まで

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。

受付電話(0570-02-9999)で購入

▶9月24日(火)10:00より各プログラムの4日前23:59まで購入可能

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。

* 毎週火・水2時30分～5時30分はシステムメンテナンスのため受付休止となります。

チケットぴあのサイト

(<https://w.pia.jp/t/nfaj-austriahungary/>)で購入

▶購入時期によってご利用可能な決済方法が異なります。

⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円、また決済方法によって1件につき決済手数料がかかる場合があります。

* 手数料等の詳細については、上記チケットぴあのウェブサイトをご覧ください。

前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。



「活動写真界」1911年11月(第26号)



「キネマ旬報」1919年7月11日創刊号 群馬県太田市立新田図書館所蔵

トークイベントのご案内 映画雑誌小講座

9月21日(土)

「日本の映画雑誌事始め」

トーク: 本地陽彦(国立映画アーカイブ客員研究員)

10月19日(土)

「戦後、映画雑誌の黄金時代をめぐる」

対談: 佐藤忠男(映画評論家・日本映画大学名誉学長) × 高崎俊夫(書籍編集者・映画評論家)

11月16日(土)

「いま、映画雑誌とは」

対談: 田野辺尚人(「別冊映画秘宝」編集長) × 平嶋洋一(株式会社キネマ旬報DDエディター)

2階受付では、「NFAJ ニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、国立映画アーカイブのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。



FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

【常設展】企画展に併設

NFAJコレクションでみる日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film From the NFAJ Non-film Collection
[Captions in Japanese, English, Chinese and Korean]

映画の渡来した19世紀末から発展を続け、二つの黄金時代を経験した日本映画の豊かな歴史を、長年、国立映画アーカイブ(旧フィルムセンター)が収集してきた多彩なコレクション(ポスター・ステル写真・雑誌・製作資料・業界資料・カメラなど機械類・映画人の遺品・映像など)によってたどります。日本映画史の新しい学びの場として、小学生から大人まで幅広い世代の方々を対象とする内容になっています。

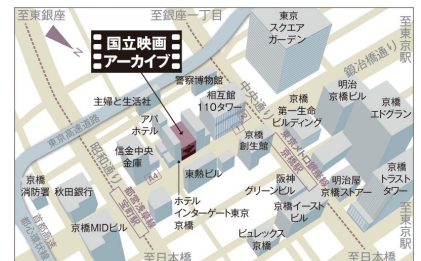
開室時間＝午前11時～午後6時30分(入室は午後6時まで)
※毎月未金曜日は午前11時～午後8時(入室は午後7時30分まで)
料金(常設展・関連企画共通)＝一般250円(200円) / 大学生130円(60円) / シニア、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

* 国立映画アーカイブの上映観覧券(観覧後の半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

* 2019年11月3日(日・祝)「文化の日」は無料でご覧いただけます。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口9より徒歩7分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600
ホームページ: www.nfaj.go.jp

Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR
Instagram: nationalfilmarchiveofjapan